

## 参考資料

本資料は、米国で2009年2月5日(木)に発表されたプレスリリースの日本語抄訳版です。  
2月6日(金)、日銀金融記者クラブで配布しています。



# 米国ハートフォード、 2008年第4四半期および年間業績を発表

- 主要保険事業は堅調
- 2008年末現在の資本力は健全
- 2009年は資本力の維持およびリスクの低減に注力
- 四半期配当金を0.05ドルに減額見通し

2009年2月5日 コネチカット州 ハートフォード -- ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所コード：HIG、以下「ハートフォード」）は本日、2008年第4四半期（以下「当四半期」）において8億600万ドル（希薄化後1株当たり2.71ドル）の純損失を計上したと発表しました。前年同期における純利益は5億9,500万ドル（希薄化後1株当たり1.88ドル）でした。また、2008年通期では27億ドル（希薄化後1株当たり8.99ドル）の純損失となっております。前年は29億ドル（希薄化後1株当たり9.24ドル）の純利益を計上しています。連結決算の概要は下表のとおりです。

（単位：100万ドル、ただし1株当たりの数値を除く）

	四半期業績			通期業績		
	2008年 第4四半期	2007年 第4四半期	変動	2008年	2007年	変動
純利益（損失）	\$(806)	\$595	NM	\$(2,749)	\$2,949	NM
希薄化後1株当たりの純利益（損失）	\$(2.71)	\$1.88	NM	\$(8.99)	\$9.24	NM
利益（損失）*	\$(208)	\$840	NM	\$858	\$3,507	(76%)
希薄化後1株当たりの利益（損失）*	\$(0.72)	\$2.66	NM	\$2.74	\$10.99	(75%)
預り運用資産*	\$346,916	\$426,764	(19%)			
1株当たり純資産	\$28.53	\$61.20	(53%)			
1株当たり純資産 （その他包括利益累計額を除く）*	\$51.69	\$63.93	(19%)			

\*GAAP基準によらず計算された「非GAAP」に基づく。

（「\*」はGAAP会計基準以外の基準（「非GAAP」）による財務指標。詳細は後述の「非GAAP方式による財務数値およびその他の財務指標について」の項をご参照下さい。

ハートフォードは、200%以上の増減または純利益と純損失間の変動については「NM（意味を持たない）」と表示しています。

ハートフォード会長兼 CEO のラマニ・アイアーは「今期は、明らかに当社の約 200 年におよぶ歴史の中で最も大きな試練の年でした。下期に入って資本市場の厳しさが増し、特に株式関連事業と投資業績が影響を受けました。しかしながら 2008 年末に向けていくつかの資本増強策を実施しており、お客様とのお約束を果たす体制が十分に整っております」と述べています。

2008 年末において、ハートフォードの生命保険事業会社のリスク・ベース・キャピタル (RBC) 比率は速報値で 385% であり、損害保険事業会社の資本は、「AA」の格付けに対して従来格付け機関が求めてきた水準を確保しております。当社の資本基盤に関する追加情報については、米証券取引委員会 (SEC) に提出した Form 8-K をご覧ください。

アイアーはまた、次のように述べています。「連邦政府の景気刺激策に関する決定を楽観視しておりますが、リスクが深刻に見受けられることに変わりはありません。したがって、当社にとって 2009 年は資本力の維持とリスクの低減を最優先することが賢明だと考えております。我々はいくつかの分野で対策を実施する予定です。変額年金商品ポートフォリオのリスクを低減する取り組みは進行中ですし、事業全体を見直してさらなるリスク低減の可能性を検討いたします。また、次回取締役会で 1 株当たりの配当を 0.05 ドルに引き下げることを提言する予定です。これにより、年間 3 億 5,000 万ドルの留保が可能になります」

「業績面からみると、基幹事業である保険関連事業に関しては 2008 年は好調でした。損害保険の引受業務は極めて良好で、当該事故年度および前事故年度の損失は見通しより低く留まりました。さらに、団体保険と個人向け生命保険事業は競争が激しい市場において健闘しております」とアイアーは続けました。

当四半期の正味実現キャピタル・ロス、税引き後で 6 億 1,000 万ドルとなりました。前年同期は税引き後で 2 億 3,000 万ドルでした。2008 年通期の正味実現キャピタル・ロス、税引き後で 36 億ドルとなりましたが、この大部分は有価証券の減損によるものです。2007 年通期の正味実現キャピタル・ロス、税引き後で 5 億 6,000 万ドルでしたが、これも主に有価証券の減損によるものでした。

また当四半期の結果には、税引き後の営業権減損償却額 5 億 9,700 万ドルが含まれています。その内 3 億 2,300 万ドルを持株会社で計上し、2 億 7,400 万ドルを個人年金部門で計上しています。

さらに 2008 年通期の純損失には、第 3 四半期に実施した将来の利益見積額の修正（「繰延新契約費 [DAC] アンロック」）に関連する税引き後 9 億 3,200 万ドルの繰延新契約費の償却が含まれています。2007 年通期には DAC アンロックに関連して税引き後 2 億 1,300 万ドルの上方修正額を計上しています。将来の利益見積は DAC を含む特定の資産および負債残高を評価査定するために使用されるものです。

## 事業部門別業績

### 損害保険事業部門

ハートフォードの損害保険事業会社の当四半期における計上保険料は、前年同期比2%減の25億ドルとなりました。2008年通期の計上保険料は102億ドルを計上しました。また前年は104億ドルでした。

損害保険事業会社の継続事業では、当四半期 2億9,700万ドルの純利益を計上しました。これには1億3,800万ドルの正味実現キャピタル・ロスの影響が含まれています。前年同期における継続事業の純利益は3億2,300万ドルでした。2008年通期の継続事業の純利益は1億8,900万ドル、前年は15億ドルとなっています。当該減額は、主に運用実績の低迷によるもので、これには2008年の11億ドルの正味実現キャピタル・ロスが含まれます。2007年には1億400万ドルの正味実現キャピタル・ロスを計上しています。

継続事業において、当四半期の異常災害を除くコンバインド・レシオは78.0%で、前年同期は88.4%でした。当四半期は、主に中小企業労働者向け災害補償保険、自動車損害賠償責任保険、賠償責任保険に関連し、継続事業における責任準備金の過年度調整として7.6ポイント、1億9,500万ドルの責任準備金戻入額を計上しました。前年同期には4.8ポイント、1億2,600万ドルの責任準備金戻入額を計上しています。また、当四半期は主に自動車損害賠償責任保険および中小企業労働者向け災害補償保険に係る当該事故年度責任準備金戻入額を3.7ポイント、9,500万ドル計上しています。前年同期は0.5ポイント、1,300万ドルの当該責任準備金積増額を計上しています。

2008年通期の継続事業におけるコンバインド・レシオは2007年度と同様の90.7%でした。異常災害を除く2008年継続事業におけるコンバインド・レシオは85.7%で、前年は89.0%でした。

### 個人向け損害保険

当四半期における個人向け損害保険の計上保険料は、前年同期と同じ9億3,600万ドルを維持しました。AARP（全米退職者協会）からの当四半期計上保険料は3%増加し、競争の厳しい市場で堅調な伸びを見せました。

個人向け損害保険では、当四半期の異常災害を除く当該事故年度コンバインド・レシオは86.8%となり、前年同期は93.7%でした。当四半期の結果には、主に自動車損害賠償責任保険に係る年初から9ヶ月の責任準備金調整として3.4ポイント、3,300万ドルの上方修正額が含まれます。個人向け損害保険におけるハリケーン・アイクに係る2008年当四半期の損失額は4,200万ドルの減少となる見込みです。

### 小規模企業向け損害保険

当四半期、小規模企業向け損害保険の計上保険料は、6億2,200万ドルとなりました。前年同期は6億4,900ドルとなっております。当四半期末時点での保有契約高は、募集人の技術およびサービス改善への取り組みが奏功し、前年同期から2%増となりました。

小規模企業向け損害保険では、当四半期の異常災害を除く当該事故年度コンバインド・レシオは76.8%となりました。前年同期の当該レシオは88.8%でした。当四半期の結果には、主に中小企業労働者向け災害補償保険に係る4.4ポイント、3,000万ドルの過年度責任準備金調整としてのの修

正額が含まれています。ハリケーン・アイク関連の2008年当四半期の損失額は3,100万ドル増となる見込みです。

### 中規模企業向け損害保険

中規模企業向け損害保険の計上保険料は、前年同期の6億900万ドルに対して、当四半期は5億7,700万ドルとなりました。保有契約高は、リテンションの取り組みが成功し2008年に新契約が増加したことにより、前年末比で3%増となりました。

中規模企業向け損害保険では、前年同期の異常災害を除く当該事故年度コンバインド・レシオは96.1%でしたが、当四半期は86.0%となりました。また当四半期の結果には、年初から9カ月の労働者向け災害補償保険を中心とした責任準備金戻入額2,800万ドル(5.1ポイント)が含まれています。

### 特定リスク損害保険

特定リスク損害保険では、当四半期に前年同期比3%増となる3億3,000万ドルの計上保険料を計上しました。特定リスク損害保険における当四半期の異常災害を除く当該事故年度コンバインド・レシオは、96.7%となりました。前年同期の当レシオは97.3%でした。当四半期の結果には年初から9カ月の責任準備金戻入額の上方修正額300万ドル(0.9ポイント)が含まれています。

## 生命保険事業部門

当四半期末時点での生命保険事業の預り運用資産は2,980億ドルとなりました。前年同期は3,720億ドルでした。この減少の大部分は株式市場の下落によるものです。生命保険事業では前年同期に2億7,700万ドルの純利益を計上しましたが、当四半期は8億700万ドルの純損失となりました。当四半期の結果には5億5,700万ドルの税引き後正味実現キャピタル・ロス、および当社の米国の変額年金事業における税引き後の営業権減損償却額2億7,400万ドルが含まれています。前年同期においては、1億6,800万ドルの税引き後正味実現キャピタル・ロスが含まれていました。

### 個人向け市場

#### 個人向け投資商品

前年同期に1,805億ドルとなっていた個人向け投資商品の預り資産残高は、当四半期末時点で1,190億ドルとなりました。これは主に株式市場の下落によるものです。当四半期は6億7,000万ドルの純損失を計上しましたが、これには4億7,500万ドルの正味実現キャピタル・ロスが含まれています。前年同期には1億9,600万ドルの純利益を計上しましたが、これには1,200万ドルの正味実現キャピタル・ロスが含まれていました。また、当四半期の結果には税引き後の営業権減損償却額2億7,400万ドルも含まれています。

当四半期の変額年金の販売額は12億ドルとなり、前年同期の31億ドルから減少しました。この減少は、商品環境の競争激化および非常にボラティリティの高い株式市況の影響によるものです。定額年金の販売額は、保証利率に対する需要が増したことから、前年同期の1億2,800万ドルから、当四半期は8億4,800万ドルと増加しました。変額年金正味資金流出額は、前年同期は11億ドルでしたが、当四半期には19億ドルとなりました。変額年金預り運用資産は、前年同期は1,191億ドルでしたが、当四半期は746億ドルとなりました。

ミューチュアル・ファンドの販売額は、前年同期は 35 億ドルでしたが、当四半期は株式市場低迷により 26 億ドルとなりました。個人向けミューチュアル・ファンドの預り運用資産は、前年同期末には 484 億ドルでしたが、当四半期末時点では 310 億ドルとなりました。また当四半期中に当社は、モーニングスターで 5 つ星格付けのハートフォード中型株ファンドの取扱いを新規投資家向けに再開しました。

## 個人向け生命保険

個人向け生命保険の当四半期販売額は 7,000 万ドルとなり、前年同期は 8,900 万ドルでした。当四半期の個人向け生命保険の保有契約高は、前年同期比 9%増の 1,950 億ドルとなり、そのうち定期保険では 21%増の 630 億ドルとなりました。これは顧客が定額商品へシフトしたことと、定期保険商品の新販売ツールの改善によるものです。

個人向け生命保険では、当四半期に 900 万ドルの純損失を計上しました。これには 1,800 万ドルの正味実現キャピタル・ロスが含まれています。前年同期は、3,100 万ドルの純利益を計上し、これには 900 万ドルの正味実現キャピタル・ロスが含まれています。

## 事業主向け市場

### 企業年金

第 4 四半期末の企業年金の預り運用資産は、前年同期末の 285 億ドルから 30%増の 370 億ドルとなりました。当四半期の販売額合計は、前年の 14 億ドルから 40%増の 20 億ドルとなりました。預り運用資産および販売額の増加は、2008 年初めに成立した買収案件の効果と継続事業による成長を反映しています。

企業年金は、当四半期に 2,300 万ドルの純損失を計上し、これには 2,200 万ドルの正味実現キャピタル・ロスが含まれています。前年同期は、700 万ドルの純損失を計上し、これには 1,500 万ドルの正味実現キャピタル・ロスが含まれています。

### 団体保険

団体保険の自己積立型を除く第 4 四半期の販売は、前年同期比 4%増の 1 億 4,600 万ドルでした。LIMRA（生命保険販売および代理店経営研究協会）によると、ハートフォードは、年初から 9 カ月間の累計販売額ベースで、団体就業不能保険では第 1 位、団体生命保険では第 2 位を維持しています。当四半期の自己積立型を除く保険料は前年比 4%増の 11 億ドルとなりました。

当四半期、団体保険は 7,200 万ドルの純利益を計上し、これには 1,800 万ドルの正味実現キャピタル・ロスが反映されています。前年同期には 900 万ドルの正味実現キャピタル・ロスを含む 8,000 万ドルの純利益が計上されています。

## インターナショナル市場

当四半期の日本における変額年金販売額は、低迷する市況と競争激化により円ベースで前年同期比 77%減の 282 億円（2 億 9,100 万ドル）となりました。当期中の変額年金の正味資金流出額は 3,090 億円（31 億ドル）となりました。これは日本で取り扱っている「アダージオ 3WIN」の下限値到達に伴う年金移行を主因とするものです。

日本における預り運用資産合計は、市況悪化を受け 2008 年 12 月末時点で、円ベースで前年同期比 26%減の 3.1 兆円（345 億ドル）となりました。インターナショナル事業の当四半期の純損失

は2億9,800万ドルで、これには正味実現キャピタル・ロス1億9,200万ドルが含まれます。前年同期には、正味実現キャピタル・ロス3,100万ドルを含め3,800万ドルの純利益を計上しました。

## 企業向け市場

企業向け販売額は、前年同期の15億ドルに対し、当四半期は9億2,800万ドルとなりました。2008年当四半期の販売は市況低迷の影響を受けました。企業向け預り運用資産は2008年12月末時点で591億ドルとなり、前年同期は615億ドルでした。企業向け市場における当四半期の純利益は、正味実現キャピタル・ゲイン8,000万ドルに支えられ4,100万ドルを計上しました。前年同期には正味実現キャピタル・ロス7,700万ドルを含む4,300万ドルの純損失を計上しています。

## 資産運用

当四半期の売買目的有価証券を除く税引き前正味投資収益は、前年同期比38%減の8億900万ドルとなりました。これは、リミテッドパートナーシップおよびその他のオルタナティブ運用における税引き前損失3億3,300万ドルの他に、当社が短期債券および政府債券の保有を増やしたことによる債券運用における利回りの低下が主因となっています。

当四半期の税引き後正味実現キャピタル・ロスは6億1,000万ドルとなりました。前年同期は2億3,000万ドルでした。これは主に当社の変額年金GMWB（受取総額最低保証）ヘッジング・プログラムにおける損失および有価証券の減損によるものです。当四半期の減損は主に、商業用不動産ローン担保証券および金融関連証券のさらなる価格下落に関連したもの、および当社が売買目的として保有している有価証券の減損によるものです。また、当四半期末時点での税引き後正味未実現キャピタル・ロス残高は68億ドルとなっています。

ハートフォードの売買目的有価証券を除く資産額合計は、前年同期末時点の949億ドルに対し、当四半期末時点では893億ドルとなっています。信用スプレッド拡大による評価額の低下が資産価値下落の主要因となっています。

## 2009 年見通し

ハートフォードは現在、以下の前提条件に基づき、2009年の希薄化後1株あたりの利益は5.80ドルから6.20ドルになると予測しています。当プレスリリースに記載の見通しは、2009年に発生するかもしれない予測不可能な給付金や費用、ならびに以下の要因の影響を受けます。過去においては、当社が事前に提供した見通しでは予測していなかった異常もしくは予測不可能な給付金や費用が頻繁に発生しています。

2009年の見通しでは、次の条件を見込んでいます。

- 2008年12月31日のS&P500の指標が903であることを基準に、米国株式市場における年換算利回りが9.0%（7.2%の株価上昇と1.8%の配当を含む）
- 当見通しは、当社の将来利益の見積に関する前提条件が、予定されている2009年第3四半期レビューによりどの程度影響を受けるかの予測を含むものではない。将来利益の見積は、特定の資産と負債の償却費計算（主に生命保険の繰延新契約費）に使用される。同レビューにより相当の影響があることは確実だが、当社は現時点ではその程度を予測しかねる。
- 損害保険事業部門のその他事業における税引き前営業損失は1億6,000万ドル。ただし過去数年、その他事業における営業損失は、見通しに使用された前提条件と大幅に異なっている。
- 異常災害率は3%から3.5%
- リミテッドパートナーシップおよびその他のオルタナティブ運用からの年換算利回りが（9%）
- 2009年通期で、希薄化後加重平均発行株式総数が3億2,610万株

米国およびその他の市場は、主に世界の金融システムに影響を与える様々な負荷により12ヵ月以上にわたり極めて不安定かつ混乱した状態にあり、この傾向は2008年後半から大幅に加速化しました。米国、欧州、および日本は、過去および今後期待される世界主要経済国の政府介入にもかかわらず、2009年を通じて継続する可能性のある深刻な不況に陥っています。現在も続いている世界金融危機は、当社の2009年の利益見通しが不正確となる可能性を高めています。当社の2009年度実績は、上記の前提条件とはほぼ確実に異なることが予想されます。その要因は、足元の世界のマクロ経済的な状況に加え、当社のForm 10-Q 四半期報告書およびForm 10-K 年次報告書で規定したリスク要因、信用市場と株式市場の変動による将来の利益見積の大幅修正、事前の予測や見通しが困難な繰延新契約費償却額および当社の実行税率の増減、損害保険事業における損失コスト傾向の変化、前提条件とは異なるレベルの巨大災害損失、長期におよぶ潜在的な災害リスクの年次レビュー、環境にかかわる支払請求およびこれら支払請求における再保険による回収可能性も含むすべての保険事業のための過年度発生支払準備金の年次定例レビューから発生する見積りの変更の結果等が挙げられます。

## カンファレンス・コール

ハートフォードは、2009年2月6日午前10時（東部標準時間／日本時間2月7日午前0時）に2009年第4四半期および2008年度通算の業績に関するカンファレンス・コールを実施します。カンファレンス・コールとスライドによるプレゼンテーションは、ハートフォードのウェブサイトから同時にアクセスいただけます（[ir.thehartford.com](http://ir.thehartford.com)）。

第4四半期および2008年度のより詳細な財務情報は、ハートフォードのウェブサイト上の「投資家向け財務情報補足」に掲載されています（[ir.thehartford.com](http://ir.thehartford.com)）。

## 「ハートフォード」について

ハートフォードは米国の大手保険および金融サービス会社の1つであり、投資金融商品をはじめ、各種生命保険、団体年金、団体生命保険、自動車保険、住宅保険、法人向け損害保険などを提供しています。国際事業部門は、日本、英国、カナダ、ブラジル、アイルランドで事業を展開しています。より詳細な情報についてはハートフォードのウェブサイトをご覧ください（[www.thehartford.com](http://www.thehartford.com)）。

## 非GAAPその他の会計基準について

ハートフォードは、投資家の皆様が当プレスリリース中の会計期間の当社業績の分析をしやすいよう、当リリースにおいて非GAAPその他の会計基準を採用しています。これらの会計基準によるハートフォードの計算は、他企業が使用する類似の会計基準と異なる場合もあるため、投資家の皆様にはハートフォードの非GAAPその他の会計基準と他企業の会計基準の比較に際しては十分な注意を払われるようお願いいたします。

ハートフォードは、当社の業績の重要な指標として非GAAPに基づく利益（損失）額（コア・アーニングス）を使用しています。この指標は、特定の正味実現利益および損失によって不明瞭になりうる保険および金融サービス事業業績の傾向を明らかにするため、当社はこの利益額は、投資家の皆様にとってハートフォードの現在の事業に関する重要な判断基準であると考えています。正味実現利益と損失の一部は、主に投資判断や外部の経済状況の影響を受けるものであり、その性質と時期は当社の保険ならびに同契約の事業に関連するものではありません。

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービスズ・グループ・インク  
事業部門別業績

(単位：100万ドル、ただし1株当たりの数値を除く)

	第4四半期 (10月1日～12月31日)			2008年通期 (1月1日～12月31日)		
	2007	2008	増減	2007	2008	増減
<b>生命保険事業部門</b>						
個人向け投資商品	\$ 196	\$ (670)	NM	\$ 812	\$ (1,399)	NM
個人向け生命保険	31	9	(71%)	182	(43)	NM
個人向け商品合計	227	(661)	NM	994	(1,442)	NM
企業年金	7	(23)	NM	61	(157)	NM
団体保険	80	72	(10%)	315	(6)	NM
事業主向け商品合計	87	49	(44%)	376	(163)	NM
インターナショナル	38	(298)	NM	223	(325)	NM
企業向け投資商品	(43)	41	NM	17	(502)	NM
その他	(32)	62	NM	(52)	(11)	79%
<b>生命保険事業純利益合計</b>	<b>277</b>	<b>(807)</b>	<b>NM</b>	<b>1,558</b>	<b>(2,443)</b>	<b>NM</b>
(-)税引後正味実現キャピタル・ロス(繰延新契約費調整後)(1)	(180)	(546)	NM	(434)	(2,484)	NM
<b>生命保険事業利益合計</b>	<b>457</b>	<b>(261)</b>	<b>NM</b>	<b>1,992</b>	<b>41</b>	<b>(98%)</b>
<b>損害保険事業部門</b>						
<b>継続事業</b>						
継続事業引受業績						
個人向け損害保険	30	202	NM	322	280	(13%)
小規模企業向け損害保険	204	167	(18%)	508	437	(14%)
中規模企業向け損害保険	58	148	155%	157	169	8%
特定リスク損害保険	(58)	58	NM	(18)	71	NM
継続事業引受業績合計	234	575	146%	969	957	(1%)
正味サービシング収益	11	10	(9%)	52	31	(40%)
正味投資収益	357	127	(64%)	1,439	1,056	(27%)
その他費用	(69)	(39)	43%	(248)	(219)	12%
正味実現キャピタル・ロス	(87)	(214)	(146%)	(160)	(1,669)	NM
法人税	(123)	(162)	32%	(575)	33	NM
<b>継続事業純利益</b>	<b>323</b>	<b>297</b>	<b>(8%)</b>	<b>1,477</b>	<b>189</b>	<b>(87%)</b>
<b>その他事業</b>						
その他事業純利益(損失)	26	(6)	NM	30	(97)	NM
<b>損害保険事業純利益合計</b>	<b>349</b>	<b>291</b>	<b>(17%)</b>	<b>1,507</b>	<b>92</b>	<b>(94%)</b>
(-)税引後正味実現キャピタル・ロス(1)	(65)	(161)	(148%)	(122)	(1,225)	NM
<b>損害保険事業利益合計</b>	<b>414</b>	<b>452</b>	<b>9%</b>	<b>1,629</b>	<b>1,317</b>	<b>(19%)</b>
<b>持株会社</b>						
持株会社純損失合計	(31)	(290)	NM	(116)	(398)	NM
<b>連結財務実績</b>						
純利益(損失)	595	(806)	NM	2,949	(2,749)	NM
(-)税引後正味実現キャピタル・ロス(繰延新契約費調整後)(1)	(245)	(598)	(144%)	(558)	(3,607)	NM
<b>利益(損失)</b>	<b>\$ 840</b>	<b>\$ (208)</b>	<b>NM</b>	<b>\$ 3,507</b>	<b>\$ 858</b>	<b>(76%)</b>
<b>1株当たり利益</b>						
希薄化後1株当たり利益						
純利益(損失)	\$ 1.88	\$ (2.71)	NM	\$ 9.24	\$ (8.99)	NM
利益(損失)	\$ 2.66	\$ (0.72)	NM	\$ 10.99	\$ 2.74	(75%)
1株当たり純資産						
1株当たり純資産(その他包括利益累計額を含む)	\$ 61.20	\$ 28.53	(53%)			
その他包括利益累計額の1株当たりの影響	\$ (2.73)	\$ (23.16)	NM			
1株当たり純資産(その他包括利益累計額を除く)	\$ 63.93	\$ 51.69	(19%)			

(1) 利益に含まれていない正味実現キャピタル・ゲイン/ロス。  
ハートフォードでは、200%以上の増減、またはネット・ゲインからネット・ロスあるいはその逆の場合の変動を「NM」(該当せず)と定義しています。

ザ・ハーフォード・ファイナンシャル・サービスズ・グループ  
2009年第1四半期および通期見通し  
2009年通期の希薄後1株当たりの利益見通しは5.80ドル～6.20ドル

損害保険事業部門	2009年通期計上保険料 2008年増加率との比較	2009年通期 コンバインド・レシオ*	
継続事業	(2%) - 1%	90.0% - 93.0%	
個人向け損害保険	0 - 3%	89.5% - 92.5%	
自動車保険	0 - 3%		
住宅保険	(2%) - 1%		
小規模企業向け損害保険	(2%) - 1%	85.0% - 88.0%	
中規模企業向け損害保険	(6%) - (3%)	93.5% - 96.5%	
特定リスク損害保険	(2%) - 1%	96.5% - 99.5%	
*異常災害および過年度に関する増減を除く			
生命保険事業部門	販売額	純増加額	総資産利益率 <sup>1</sup>
米国個人年金			個人年金
2009年通期-変額年金	\$30億-\$50億	(\$82)億-(\$62)億	63-66 bps
2009年第1四半期-変額年金	\$5億-\$10億	(\$22.5)億-(\$17.5)億	
2009年通期-定額年金	\$17.5億-\$22.5億	\$7.5億-\$12.5億	
日本個人年金			日本事業
2009年通期-変額年金	\$7.5億-\$15億	(\$12)億-(\$5)億	46-56 bps
1ドル=90.7円での換算値	¥680億-¥1360億	(¥1,040)億-(¥450)億	
2009年第1四半期-変額年金	\$2億-\$4億	(\$2)億-\$0億	
1ドル=90.7円での換算値	¥180億-¥360億	(¥180)億-(¥50)億	
リテール・ミューチュアル・ファンド			その他個人向け投資商品
2009年通期	\$90億-\$110億	\$6億-\$26億	4-7 bps
2009年第1四半期	\$20億-\$26億	(\$0.5)億-\$5.5億	
企業年金			
2009年通期	\$80億-\$90億	\$5億-\$15億	7-10 bps
2009年第1四半期	\$22億-\$26億	\$5億-\$10億	
企業向け投資商品			
2009年通期	\$35億-\$55億	(\$20)億-\$0億	7-11 bps
団体保険 (2009年通期)			
自己積立型を除く保険料*	\$46億-\$47億		
ロスレシオ	71% - 74%		
経費率	26% - 28%		
税引後マージン**	6.0% - 6.4%		
* 自己積立型を除く保険料の見通しは、買収に係る保険料、および保険料に類するものを除く。			
** 税引後マージンの見通しは、買収に係る保険料を除く収入合計で利益を除いたもの。			
個人向け生命保険 (2009年通期)			
保有契約高増加率	7% - 9%		
税引後マージン*	12% - 14%		
* 税引後マージンの見通しは、収入合計で利益を除いたもの。			

<sup>1</sup>総資産利益率は2009年第3四半期に予定されたDACアンロックによる影響予測を除く。